その他情報

○小樽市議会第１回定例会　―　無所属議員の懲罰について・・・

　第４回小樽市議会定例会で、森井市長への再度の辞職勧告決議案が提案され、その決議案の討論中、無所属石田議員が、前市長の名誉を棄損する内容、各市議会議員を侮辱する内容の発言を行いました。これに対して議会では、懲罰委員会を設置。この議員に対する懲罰について検討が行われました。懲罰委員会では、議会が作成した謝罪文を議場で読み上げる陳謝という懲罰を課すことを決定。本年第1回定例会で、懲罰委員会委員長報告の後、全会一致で議決し、議長が石田議員に謝罪文を示し、読み上げるよう指示すると、石田議員はこれに従わず、再度懲罰委員会にて審議。結果、石田議員には7日間の出席停止の懲罰が課せられました。

中村よしひろ　活動報告・予定など

○議会会派視察報告

　２月６日から８日まで、議会会派視察に行って参りました。今回は、新幹線開業の効果等について、富山県高岡市、コンパクトシティ事業の計画と実施について、富山県富山市を訪問し、各都市の取り組み状況を視察して参りました。富山県高岡市にある北陸新幹線新高岡駅は、終着駅金沢駅の一つ手前の駅であり、北海道新幹線が2030年に札幌延伸し、開通した場合、新小樽駅がちょうど同じ立場になります。終着駅の手前の駅にどのような効果あるのか、という疑問をもって訪問しましたが、高岡市では、新駅の周辺開発に苦慮をしている様子が伺えました。また、真に新幹線効果をもたらすためには、都市間を飛ばして走る「速達便」を停車させることが重要であることも実感させられました（新高岡は速達便が停車しません）。周到な交渉が必要です。

　　富山市では、路面電車や私鉄、バスなどの公共交通を絡めた、集落を結び付ける施策で、市街地の拡散を防ぎながら街づくりを進めてきたとのことです。中心市街地にも居住者が増加している状況も確認しました。市街地居住の便利さを市民に説くことで、強制ではなく、誘導する効果が生じているとのことでした。富山市は、地域公共交通網策定にあたり、国が法整備をするモデルとなった地域です。早くから取り組みが行われているということが解りました。そしてなにより市長のリーダーシップが素晴らしいと感じました。

・自民党街頭演説　金曜朝7:30～　主に小樽駅前にて

〇予告

第10回　**和を遊ぶ**

中村よしひろ出演予定

6月10日　市民会館

只今日本舞踊の練習中

（大丈夫か…）

**☆ご案内☆**

小樽春まつり開催

**平成３０年　５月２５日（金）～5月２７（日）**

***小樽花銀通・サンモール一番街・小樽都通り・梁川通商店街***

○中村よしひろ　今年も実行委員として頑張ります！

混迷深まる市政の状況です。その中でも、市民生活を守る観点を大切に頑張ります。

中村よしひろ

**第５回　国際スポーツ雪かき選手権御礼**

平成30年2月17日国際スポーツ雪かき選手権が開催され、無事に終了致しました！

今年は天神町でのボランティア雪かきの後、第3ふ頭のマリン広場で雪かき競技を行いました。大会ご参加の方、ご協賛などご支援を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。今回は、第5回目の記念として、「雪かきサミット」を開催。雪かきサミットにご参加いただきました、皆様にも心より感謝申し上げます。

○ようやく春らしくなって参りましたが、時折寒い日もございます。お体にはご留意ください。

**自民党広報**

**小樽・後志と国のパイプ役**

・中村　ひろゆき

**3期目も明るく・でっかく・堂々と**

**北海道第4選挙区　衆議院議員**

***今後ともよろしくお願いいたします！***

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　―今回の議会で、報道なども取り上げた情報です―

***副市長選任できず***

昨年11月末で、上林前副市長が辞任しました。その後継の副市長選任人事は、以降全く進んでおりません。今定例会で、複数の議員が、副市長の選任について質問を行いましたが、森井市長は、具体的人選に至っていない旨を答弁しました。副市長というと、市長の補佐等を行う役職と一般的には映るのかもかもしれません。実は、小樽市の副市長は、除雪対策本部長となることや、石狩湾新港管理組合の副管理者となることが予定されております。その他にも小樽市副市長が行わなければならない職務や、就任しなければならない役職が多数ある中で、このままでは小樽市の機能が市役所内外で発揮されないことになります。とはいえ、他人の言うことに耳を貸さない森井市長の物事の進め方に賛同しサポートする人がいないというのが現状です。

***今定例会も会期延長***

当初3月15日が会期末の第1回定例会でしたが、今回も会期延長となり、3月20日の最終本会議終了をもって閉会という形になりました。原因は、予算特別委員会における、雪対策課の「議員要求資料出し渋り」で、予定していた議員の質問ができず1日延長、そして、予算案が原案通り予算特別委員会を通過しなかったことについて、海難救助事業費に関し、市長が新聞のインタビューに「もし海難事故が起きたら議員はどう責任をとるのか」などと発言、この発言について総務常任委員会で質疑されたところ、どんな責任があるのかなど説明がつかず、不明確な答弁を繰り返して、総務常任委員会を混乱、空転させたため、会期が延長しました。海水浴は自己責任、水難事故は小樽市の責任ではありません。市長の認識不足です。

***小樽市手話言語条例制定***

小樽ろうあ協会の要請を受け、議会でもかねてから議論されていた条例案が上程、本会議で可決されました。

***１．高島漁港区に係る職員の処分について***

　　昨年来問題となっている、高島漁港区における観光船事業に対する条例等違反の許認可について

（１）職員の処分について、市ではどのように対応するのか。許認可取消等から生じると思われる不確定な

　　　状況についてまで職員に責任を負わせることは妥当ではないのではないか。

（２）一時不再理の効力が発生するので、という説明で、処分時期をいたずらに先延ばしすることは妥当ではない。今後の再発防止も含めて、一定の処分を行うべきではないか。

***２．除排雪について***

（１）今冬の除排雪状況、特に排雪について、市民に大きな不満をもたらしている。市では認識しているか。

（２）市は排雪を行うタイミングについて、まず書き分け除雪を行い、道幅が狭くなった段階で、路肩に積

み上げ、一定程度高くなったら排雪を行うと説明している。市民は高く積み上げられた雪壁が危険と認識し、不安の声も多く寄せられる。どのくらいの高さになったら排雪するのか、明確な基準は設けていないのか。

　（３）市民ニーズに適う排雪を、市は行うべきである。

***３．今後のまちづくりについて***

（１）駅前第1ビルは老朽化で、耐震基準を満たしていないことが判明している中、民間では、建替え等の

検討が進められている。こうした議論の中に市はどのように関わるのか。

（２）この問題は、市中心部全体の開発にも関わる問題である。国の補助等も要請しなければならないが、

今後の対応をどのように考えるのか。

（３）小樽の中心市街地の要である、小樽駅前について、今後第2ビルも再検討の議論が上がってくるのは必至だ。駅前交通導線、広場の問題も含め、市ではどのようなビジョンを持って、この問題解決に

　　　　あたるのか。ビジョンを示してほしい。

**・今冬の除排雪状況をみて、排雪業務に市民から不満続出！－市民ニーズに適った予算付けを**

　　もう一点の減額の主なものは、除排雪予算、とりわけ、排雪に直結する除排雪業務委託料の計上、７億６４１４万円についてであります。今年は昨年より積雪量も多かったのに、排雪事業が昨年の半分くらいしか進まない状況でした。市民の方からは、いつまで待っても排雪してくれない、など多くの苦情が寄せられた今冬の小樽市の排雪状況でした。特にひどかったのは、３学期が始まるというのに、学校周辺の排雪が全く入らない状況というのも多く指摘されていた中で、議会でも多くの議員（私含む）から除排雪の状況の質疑が行われ、そこから判明したのは、市が予算ありきで除排雪事業を行っていること、排雪を行う路線を小樽市総合除雪対策本部会議（公正性の観点から本来入るべきでない市長も中に入っている）という不透明な会議の中で決めており、会議録などは一切ない、排雪についても、道路に高く積み上げられた雪をどの時点で排雪するか、道路幅がどのくらいになったら排雪するかという基準を設けず、今後も設けない、業者と協議をしながら進めている、と言いながら、業者の意見などほぼ取り入れず市が一方的に進めているということなどです。

　　市では、今冬の除排雪状況を検討もせず、次の冬の除排雪予算を計上してきました。しかも、その予算をみると、小雪だった平成２９年度の予算より、１０００万円も減額しての計上です。冬の市民の生活利便性確保の観点から、この状況を看過するわけにはいきません。そこで我々は、今冬の除排雪状況をしっかり検討し、市民ニーズに適う予算計上を求めて、当該予算を一度差し戻しを致しました。

**・除排雪予算以外で、議会が減額修正した主な予算**

　☆市長交際費増額分（２５万円）→０円

　　これまでの市長は、年間の交際費を７５万円の予算でやりくりしてきました。市長本人が、厳しい財政状況を訴えている中で、何で増額ができるのでしょうか。その増額分予定使途について、議員の質問には明確な答えが返ってきませんが、数多くの町内会の新年会などに顔を出すためのようです。連合町会の総会等の出席でそれに代えるべきですし、公務性が認められません。選挙活動なら、公費負担の対象外の部分です。

　☆IT関連企業等誘致促進補助金（１０００万円）→０円

　　誘致企業に事務所リフォームなどの助成を行う事業費です。対象企業をIT関連企業としておりますが、議会質疑で判明したことは、コールセンターなどの会社を想定していること、２９度の事業実績は０であり、次度も、今のところ見込みを含めて０の状況とのこと。一度、対象とする業種など、企画レベルから見直すべきであり、見込みが出た時点で必要分を補正予算計上するよう求め、当初年度予算から削除しました。

　☆創業支援事業費（１９００万円）→１５００万円（▲４００万円）

　　２９年度の実績と今後の見込みを勘案し、必要分を計上。もし、追加で必要な状況が発生したら、必要額の補正予算を提案することを求め減額しました。

　☆港湾計画改定事業費（２０万円）→０円

　　小樽港港湾計画が平成３０年度改定予定でしたが、当初計画の貨物量と現状実績との乖離があり、これまで進めてきた、港湾計画改定作業を中断する、というのが、森井市政の立場であります。これには港湾関係者や、市内経済界も反発しており、議会でも、多額の予算をかけて進めてきた事業を中断するとは何事か、予定通り進めるべきだとの意見が挙げられましたが、森井市政は頑なにこれを拒んでおります。そのような状況下で、港湾計画改定事業費が計上されること自体異常だということで、この予算も凍結すべきと判断しました。

　☆水難救助事業費（４００万円）→０円

　　この事業は、銭函の海岸（限定）で、水難事故が発生した場合、その救助に当たるために、消防職員３名を海岸線に配置し、救助用ボート（原動機付）を新規購入する予算ということでした。

　　小樽市の海水浴場は銭函だけではありませんし、昨年、銭函付近で発生した水難事故の多くは、海水浴場指定外のエリアでした。また、飲酒等も水難事故の起因となります。救助については海上保安庁等の管轄であり、市として取り組むべき事業は、水難を未然に防ぐため、海水浴場外での遊泳をしない、飲酒後に遊泳しないことをしっかり周知することです。そのための事業費ならばともかく、市民の税を使ってのこの予算は認められません。

*※法律上議会は予算の修正権があります。減額修正はできますが、原則増額修正はできません。*



通信vol 18

平成30年3月21日

発行責任者：中村よしひろ事務所　後援会会長：角谷　淳

〒047-0023　小樽市最上１丁目１９番２３号　電話・FAX（0134）32-4778　　直通090-6696-9787

リアルに提言

**小樽市議会第１回定例会終了**

**～小樽市一般会計予算修正案可決～**

市民生活に直結しない予算を減額

―ふれあいパス制度存続と冬の排雪予算見直し求める－

　日々皆様には大変お世話になっております。いつも中村 よしひろに、皆様の温かいご支援を賜り、誠に有難うございます。

今回は、第1回定例会について、お知らせいたします。今回の定例会は、平成３０年度小樽市の歳入歳出会計予算を審議する議会でした。以前の市長が少しづつ、着実に積み上げてきた財政調整基金（市の貯金）を大きく取り崩す予算編成を森井市政が行う中で、示された平成３０年度の予算案を調べてみますと、各会計科目の予算（除雪費等）を減らす一方で市長交際費を増額させたり、実績のない事業を継続しようとしていたりと、森井市政３年目の予算案に議会の各議員から疑問が呈されて、各会派代表質問や予算特別委員会で厳しく審議されました。

平成３０年度の、市民生活に大きく関わる大事な議会であります。その議論経過等をお知らせ致しますが、正常な地方自治体では、そもそも予算案が原案通り議会を通過するものですが、本市では、そうならなかった、それは、予算の面から、市長が市民を見つめた施策を展開しようとしていない、ということの現れです。議会はしっかりチェックしております。

**・小樽市一般会計歳入歳出予算案の原案は、５５９億１３５５万２０００円**

この予算案を、５５１億１０３１万１千円と減額修正しました。約８億円の減額修正です。議会がこの減額修正を可決させた主な理由は、ふれあいパス事業について、利用者負担分（１回１２０円）を除いた部分（１回１００円）について、昨年度の前半まで、小樽市が７０円、中央バスが３０円を負担していた所、中央バス社の経営難により、同社負担を見直して欲しいという要請があり、これを含めた市側の不誠実かつまずい対応のため、中央バス社との信頼関係が破たん、負担依頼をできなくなったため、今年度は、これまで中央バスが負担いていた部分も（４３５０万円）小樽市の負担となったものであります。市民負担が大きく増えた形となりました。

これに対して森井市政は、何らの財源対策を行わず、その検討もせず、当たり前のように予算計上してきたものであります。これについて、我々は４３５０万円全額とまではいかないまでも、財源ねん出のため、不要と思われる予算を洗い出し、その事業の凍結を行うことで、少しでもふれあいパス事業費への財源を確保しようと努めました。提案内容の説明文書は中村よしひろが作成致しました。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（裏面へ）